

第8章 教職実践演習

- 教職実践演習の学修にあたっては、所定の要件（履修科目登録の要件、スクーリング受講要件等）を満たす必要がある。
- 教職実践演習の履修年度は、教職実践演習科目の「学修指導書」を熟読すること。

1. 教職実践演習の概要

「教職実践演習」は教職課程履修の総まとめとして、4年次の教育実習後（※）に受講する科目となり、これまでに身につけてきた知識・技能を振り返り、教員として最低限必要な資質能力が身に付いているかを確認するためのものである。これからの教員には社会で求められる人材像を踏まえた教育の展開、学校現場の諸課題への対応を図るために社会からの尊敬・信頼を受け、思考力・判断力・表現力等を育成する実践的指導力を有することが求められている。また、教職生活全体を通じて実践的指導力等を高めるとともに、探究力を持ち学び続ける存在でなければならない。本科目の履修にあたっては、学修指導書を熟読し、スクーリング受講に備えて早めに準備を行うことが求められる。

※基礎資格（学士等）取得予定者は、基礎資格（学士等）取得見込み年度にのみ履修可能である。

これからの教員に
求められる資質能力

1. 使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項
2. 社会性や対人関係能力に関する事項
3. 幼児児童生徒理解や学級経営等に関する事項
4. 教科・保育内容等の指導力に関する事項

2. 教職実践演習の履修科目登録の要件

教職実践演習を履修科目登録するためには、履修科目登録年度の年度はじめに以下の（1）と（2）の要件の両方を満たす必要がある。

- （1）基礎資格（学士等）について、取得済み、もしくは教職実践演習の履修年度に取得見込みである（正科生の場合、4年次にのみ履修可）。
- （2）対象の教員免許状の必要科目（教育実習科目含む）のすべてについて、単位修得済み、もしくは教職実践演習の履修年度に単位修得見込みである。

3. 教職実践演習のスクーリング受講の要件

教職実践演習は科目の特性上、教職課程の最後に教育実習を含め必要科目を振り返り、教員としての資質を見極めるため、受講にあたっては、教育実習終了後（事後指導スクーリングの受講含む）、必要科目の学修が完了している必要がある。

自身の学修スケジュールと、「教職実践演習」のスクーリングスケジュールを確認のうえ、適切な時期のスクーリングを受講すること。

受講要件

スクーリング受講2週間前までに以下の2つの要件をいずれも満たす必要がある。

- ①取得希望の教員免許状のすべての必要科目の単位を修得済みもしくは成績（合格）がでていること、または必要科目のうち最低でも4分の3以上の科目の単位を修得済みもしくは成績（合格）が出ていること。

※大前提として、基礎資格（学士等）について、取得済み、もしくは教職実践演習の受講年度に取得見込みであることが必須である（正科生の場合、4年次にのみ履修可）。

- ②「教職課程履修カルテ」、「自己評価表」を所定の方法で提出していること。

※受講2週間前までにいずれか一方でも要件を満たしていない場合は、スクーリング受講不可

4. 事前提出課題

「教職課程履修カルテ」・「自己評価表」には、教職課程の科目履修を始めてから「教育実習」を経て「教職実践演習」を履修するまでの学修状況の記録及び「教育実習」の前後に実施される「教員として必要な資質」についての自己評価を記入する。「教職課程履修カルテ」・「自己評価表」を記入することによって、学生自らが「共生」という本学の建学の精神を踏まえつつ教員免許状取得に向けてどのような学修が必要なのかを考え、また「教職実践演習」や補完的な教職指導に活用する。

※「教職課程履修カルテ」・「自己評価表」のほか、別途、学修指導書に課題の指示がある場合は、併せて準備すること。

（1）教職課程履修カルテ

年2回、3月末、9月末の単位認定ごとに入力し、教職実践演習のスクーリング受講2週間前までに学生ポータルサイトの提出フォームから提出（アップロード）すること。ただし、教職実践演習を受講する年度は、単位認定前であってもすべての必要科目について入力を済ませること（履修中の科目は、スクーリング受講2週間前の時点での振り返りを入力する）。

※初等あるいは中等で複数の校種・教科の免許状の取得を目指している場合は、実施した教育実習の校種・教科の同カルテを提出すること。

※「修得年度」は4月生、10月生ともに4月～翌年3月の学校暦としての年度を記入すること。

※他大学で修得済み科目がある場合、他大学の様式で作成した教職課程履修カルテの提出も必要。

＜様式＞ 学生ポータルサイト→教職課程登録者用ページ→各種様式

＜提出先＞ 学生ポータルサイト→教職課程登録者用ページ→教職実践演習

1) 対象の教員免許状のすべての必要科目について記入すること。

介護等の体験や学校ボランティアを実施していない場合、該当欄への記入は不要。

※他大学で修得した科目は他大学で作成した「教職課程履修カルテ」を提出すること。

準備できない場合、教職実践演習履修年度の年度はじめに教職総合支援センターまで相談すること。

※実務経験を実習単位に振り替えることにより教育実習を実施しない場合、また他大学で教育実習（取得希望免許状と同一校種）を実施済みでかつ教育実習日誌が手元にない場合は、所定の期日までに別途課題提出が必要であるため、教職実践演習履修年度の年度はじめに教職総合支援センターまで相談すること。その場合、「自己評価表」の提出は不要である。

2) 入力後、区分にあるすべての項目を入力しており、誤字・脱字・表記表現の誤りがないよう見直すこと。

3) 各ページの記入時期については下表を確認すること。

項 目	記入時期
教科及び教科の指導法に関する科目	単位認定（3月末以降、9月末以降）ごとに入力。 教職実践演習受講年度の履修科目は教職実践演習スクーリング受講2週間前までに状況を入力。
教育の基礎的理解に関する科目等（各科目に含める必要事項については次ページの表を参照すること）	
介護等の体験について	実施学生は施設にて介護等の体験が終了した後、速やかに入力。
学校ボランティア	学校ボランティアを行った際に入力。

4) 各項目に含めるべき必要事項については下表を参考にすること。

【初等】

各科目に含める必要事項	本学科目名
教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原理（初等）
教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）	教職概論（初等）
教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	教育経営・学校安全論（初等）
幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学（初等）
特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別の支援を必要とする幼児・児童の理解
教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	教育課程論（初等）
道徳の理論及び指導法	道徳の理論・指導法（初等）
総合的な学習の時間の指導法	総合的な学習の時間の指導法（初等）
特別活動の指導法	特別活動の指導法（初等）
幼稚園：教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。） 小学校：教育の方法及び技術／情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	教育方法・技術論（情報通信技術の活用含む）（初等）
幼児理解の理論及び方法	幼児理解の理論と方法
生徒指導の理論及び方法／進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	生徒・進路指導論（初等）
教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	教育相談（初等）
教育実習	教育実習（初等）（１）（２）

【中等】

各科目に含める必要事項	本学科目名
教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原理（中等）
教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）	教職概論（中等）
教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	教育経営・学校安全論（中等）
幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学（中等）
特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別の支援を必要とする生徒の理解
教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	教育課程論（中等）
道徳の理論及び指導法	道徳の理論・指導法（中等）
総合的な学習の時間の指導法／総合的な探究の時間の指導法	総合的な学習の時間の指導法（中等）
特別活動の指導法	特別活動の指導法（中等）
教育の方法及び技術／情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	教育方法・技術論（情報通信技術の活用含む）（中等）
生徒指導の理論及び方法／進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	生徒・進路指導論（中等）
教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	教育相談（中等）
教育実習	教育実習（中等）Ⅰ（１）（２）

※他大学等で教職課程を履修する場合には、その大学等から「教職課程履修カルテ」の提出を求められることもある。「教職課程履修カルテ」は教育職員免許状を取得するまで大切に保管しておくこと。

（２）自己評価表

教育実習終了後（事後指導スクーリングの受講含む）、**教職実践演習のスクーリング受講２週間前までに「教職課程履修カルテ」とともに提出（アップロード）すること。**

教育実習事前指導スクーリングの受講後、および教育実習終了後のそれぞれの時期に５段階で自己評価をし、教育実習実施後は「自己課題」を具体的に記載すること。

留意点

- ・期限までに「教職課程履修カルテ」および「自己評価表」の提出が確認できない場合、教職実践演習は受講できないので、注意すること。
- ・受講の際には必ず実習日誌（コピー）を準備すること。
- ・そのほか注意事項については「学修指導書」を確認すること。

＜様式＞ 学生ポータルサイト→教職課程登録者用ページ→各種様式

＜提出先＞ 学生ポータルサイト→教職課程登録者用ページ→教職実践演習

資料 3-2-1 授業実践演習（初等・中等）シラバス

授業科目名： 授業実践演習 (初等)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：仲 ^{なか} 久徳 ^{ひさのり} 担当形態：単独
実務内容 (実務家教員の場合)			
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	なし		
「学位授与の方針」との関係			
・ 問題が生起する現場において、専門知や統合知を使い、解決のために実践しようとする気概を持つこと。			
・ 個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけていること。			
・ 共生社会創造の目的のために、絶えず学び続ける意欲を持つこと。			
授業の到達目標及びテーマ			
・ 授業づくりの基礎となる授業デザイン、授業運営の方法と技術を理解する。			
・ 授業コミュニケーションを中心とした授業デザインができる。			
・ 授業コミュニケーションを中心とした模擬授業ができる。			
・ 授業コミュニケーションを中心とした学習指導案が書ける。			
授業の概要			
テキストにおいて、授業づくりの基礎となる授業デザイン（授業設計）の基礎、授業運営の方法と技術を学び、事前レポートにて指定された資料について実際に授業をデザインし、スクーリングにおいて、授業コミュニケーションに着目した授業について、模擬授業を通して相互に評価・検討しながら、効果的な授業づくりについて学ぶ。主に授業実施経験のない学生を対象とする。			
授業計画			
第 1 回：ガイダンス			
第 2 回：授業デザインの基礎①－授業デザインとは			
第 3 回：授業デザインの基礎②－学習目標・評価			
第 4 回：授業デザインの基礎③－教材研究			
第 5 回：授業デザインの基礎④－学習過程・指導過程			
第 6 回：授業運営の方法と技術①－授業を支える指導技術			
第 7 回：授業運営の方法と技術②－学びを引き出す指導技術			
第 8 回：授業デザイン演習①－教材研究をする			
第 9 回：授業デザイン演習②－授業をデザインする			
第 10 回：授業実践演習①－模擬授業（教師の立場から）			
第 11 回：授業実践演習②－模擬授業（学習者の立場から）			
第 12 回：授業実践演習③－相互評価			
第 13 回：授業実践演習④－学習指導案の作成			
第 14 回：授業研究と授業改善			
第 15 回：まとめ			

定期試験 ＊スクーリングでは、第１０回～第１３回を実施する。
教科書 稲垣 忠編著『教育の方法と技術 Ver.2 IDとICTでつくる主体的・対話的で深い学び』北大路書房 2022年 （稲垣 忠編著『教育の方法と技術 主体的・対話的で深い学びをつくるインストラクショナルデザイン』北大路書房 でも可）
参考文献 （１）佐藤 学『教育の方法』左右社 2010年 （２）秋田喜代美『学びの心理学 授業をデザインする』左右社 2012年 （３）西岡加名恵[ほか]編『新しい教育評価入門』有斐閣コンパクト 2015年 （４）田中耕治[ほか]『新しい時代の教育方法』有斐閣 2012年
学生に対する評価： レポート（２５％）、スクーリング（２５％）、科目修得試験（５０％）の割合で総合して評価する。

授業科目名： 授業実践演習 (中等)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：仲 ^{なか} 久徳 ^{ひさのり} 担当形態：単独
実務内容 (実務家教員の場合)			
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	なし		
「学位授与の方針」との関係			
・問題が生起する現場において、専門知や統合知を使い、解決のために実践しようとする気概を持つこと。			
・個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけていること。			
・共生社会創造の目的のために、絶えず学び続ける意欲を持つこと。			
授業の到達目標及びテーマ			
・授業づくりの基礎となる授業デザイン、授業運営の方法と技術を理解する。			
・授業コミュニケーションを中心とした授業デザインができる。			
・授業コミュニケーションを中心とした模擬授業ができる。			
・授業コミュニケーションを中心とした学習指導案が書ける。			
授業の概要			
テキストにおいて、授業づくりの基礎となる授業デザイン（授業設計）の基礎、授業運営の方法と技術を学び、事前レポートにて指定された資料について実際に授業をデザインし、スクーリングにおいて、授業コミュニケーションに着目した授業について、模擬授業を通して相互に評価・検討しながら、効果的な授業づくりについて学ぶ。主に授業実施経験のない学生を対象とする。			
授業計画			
第1回：ガイダンス			
第2回：授業デザインの基礎①－授業デザインとは			
第3回：授業デザインの基礎②－学習目標・評価			
第4回：授業デザインの基礎③－教材研究			
第5回：授業デザインの基礎④－学習過程・指導過程			
第6回：授業運営の方法と技術①－授業を支える指導技術			
第7回：授業運営の方法と技術②－学びを引き出す指導技術			
第8回：授業デザイン演習①－教材研究をする			
第9回：授業デザイン演習②－授業をデザインする			
第10回：授業実践演習①－模擬授業（教師の立場から）			
第11回：授業実践演習②－模擬授業（学習者の立場から）			
第12回：授業実践演習③－相互評価			
第13回：授業実践演習④－学習指導案の作成			
第14回：授業研究と授業改善			
第15回：まとめ			

定期試験 ＊スクーリングでは、第１０回～第１３回を実施する。
教科書 稲垣 忠編著『教育の方法と技術 Ver.2 IDとICTでつくる主体的・対話的で深い学び』北大路書房 2022 年 （稲垣 忠編著『教育の方法と技術 主体的・対話的で深い学びをつくるインストラクショナルデザイン』北大路書房 でも可）
参考文献 （１）佐藤 学『教育の方法』左右社 2010 年 （２）秋田喜代美『学びの心理学 授業をデザインする』左右社 2012 年 （３）西岡加名恵[ほか]編『新しい教育評価入門』有斐閣コンパクト 2015 年 （４）田中耕治[ほか]『新しい時代の教育方法』有斐閣 2012 年
学生に対する評価： レポート（２５％）、スクーリング（２５％）、科目修得試験（５０％）の割合で総合して評価する。

星槎大学

教育実習のしおり

年度

学 籍 番 号		氏 名	
学 校 ・ 園 名			
実 習 期 間	年 月 日 () ~ 年 月 日 ()		

紛失厳禁 教育実習時に持参すること！

目 次

I	教育実習とは何か	2
	1. 教育実習の意義	
	2. 教育実習の目的	
	3. 教育実習の内容	
	4. 教育実習の履修資格	
II	教育実習の心得	4
	1. 教育実習事前確認（オリエンテーション含む）	
	（1）教育実習事前確認時の基本的心得	
	（2）教育実習事前確認の際の確認事項	
	2. 教育実習	
	（1）基本的な心得	
	（2）教育実習期間中の携帯品	
	（3）服装	
	（4）勤務上の注意点	
	（5）情報の取り扱い	
	（6）園児・児童・生徒に接する心得	
	（7）教育実習の実務についての心得	
	（8）教育実習日誌	
	（9）教育実習終了後	
	3. 大学との情報共有	
III	教育実習年度の書類の流れと必要な手続き	9
	1. 教育実習年度初めの流れ	
	2. 各種書類	
	3. 2で送付した書類及びその他準備物	
	4. その他教育実習に関わる留意点	
	5. 教育実習終了後	
	6. 教育実習日誌返却	
IV	教育実習に備えて提出する書類	12
V	健康診断・麻しん抗体検査・予防接種	13
VI	教育実習科目	14
VII	教育実習個別指導体制	15
	教員免許状取得までの流れ	裏表紙

星槎大学「教員養成の理念」

星槎大学共生科学部における教員養成の理念は以下のとおりである。

【星槎大学共生科学部 教員養成の理念】

星槎大学共生科学部共生科学科は、人と人と、あるいは人と自然とが共生する社会の創造に貢献することを目的とした「共生」という建学の精神をふまえ、21 世紀に適応する広い知力の育成、心の耕作、課題探求能力育成を主要な柱として、それを教育理念としている。

その人材養成目標は、次代へと続く共生社会に寄与する人材の輩出にある。

共生社会の創造に貢献するために、子どもたちへ本学で学修したことを伝えていくことができる人材を輩出することが、本学における教員養成の理念である。

星槎大学「教職課程の設置の趣旨」

星槎大学共生科学部における教職課程の設置の趣旨は以下のとおりである。

【星槎大学共生科学部 教職課程の設置の趣旨】

星槎大学は、「建学の精神」「教育理念」を「教員養成に対する理念」の基礎としている。

本学が教職課程を設置する趣旨は、それらを具現化することにある。具体的には、以下のような教員を養成することにある。

- (1) 21 世紀の変化に応じた知識・技能の絶えざる刷新を指向する教員の養成
- (2) 共生する心を耕作することのできる教員の養成
- (3) 課題探求能力をもった教員の養成
- (4) 発達障害児等を指導する能力をもった教員の養成

また、本学校法人の建学の精神である「社会に必要とされることを創造し、常に新たな道を切り開き、それを成し遂げる」ということと、教育理念である「必要とする人々のために新たな道を創造し、人々が共生しえる社会の実現を目指し、それを成し遂げる」というものは、本学設置の大元にあるものであり、全ての教育活動に共通するものである。

「教育実習のしおり」は、教育実習の実施にあたって心がける点について詳細に案内している。熟読し、実習時にも必ず持参し状況に応じた言動が取れるようにすること。

星槎大学 介様式6

施設名		体験期間	年 月 日～ 月 日 (, , , , ,)
体験の目標	【体験前に立てた課題やテーマ等】		
自己評価・感想	Q1 体験の目標は達成できましたか？ (達成できたこと、できなかったこととその理由等を具体的に記入して下さい)。		
	Q2 社会福祉施設や利用者に関するイメージが変わりましたか？		
	1 変わった 2 どちらともいえない 3 変わらない (理由)		
	Q3 今後の学生生活や教員になった時の参考になると思ったことがありますか？		
施設での体験について	Q1 今回の体験の満足度		
	1 満足 2 やや満足 3 どちらともいえない 4 やや不満 5 不満		
	Q2 受入側の対応や体験内容について		
	1 満足 2 やや満足 3 どちらともいえない 4 やや不満 5 不満		
施設での体験について	Q3 施設への要望他（自由回答）		
星槎大学 共生科学部 (専攻)			
学籍番号	学年	年	氏 名

資料 3-2-4 学校ボランティア（初等・中等）シラバス

授業科目名： 学校ボランティアⅠ (初等)	教員免許取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	さいとうのりこ 担当教員名：齋藤憲子・ しまだ まさる さかたえいこ 嶋田 優・坂田映子 担当形態：オムニバス
実務内容 (実務家教員の場合)	小学校教諭として勤務経験を持つ教員が、学校現場の実情とそこに求められる意欲、姿勢等を指導する。		
科 目	大学が、独自に設定する科目		
各科目に含めることが 必要な事項	なし		
「学位授与の方針」との関係 星槎大学は、「人を認める、人を排除しない、仲間を作る」という三つの約束のもと、「人と人、そして人と自然とが共生する社会の創造に貢献する」を教育理念としています。共生科学部は、この三つの約束、教育理念に基づき、「21 世紀を創造する広く深い知の涵養」「共生する心の耕作」「課題探究能力の育成」「インクルージョン教育に基づいた社会実践を担い、社会変革を目指す人材の養成」を教育目的とし、以下の「星槎共生スピリット」を身に付けたものに学位を授与します。 A. 共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現の専門的知識を生かし、狭い専門領域を越えて統合しようとする意志を持つこと。 B. 問題が生起する現場において、専門知や統合知を使い、解決のために実践しようとする気概を持つこと。 C. 共感理解教育の理念を認識し、実践すること。 D. 多様な人々や生命に対して、他者を認め、他者を排除せず、仲間を作るという星槎の三つの約束の精神に則って、共生社会の創造に貢献する姿勢を身につけていること。 E. 個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけていること。 F. 共生社会創造の目的のために、絶えず学び続ける意欲を持つこと。			
授業の到達目標及びテーマ： ○学校ボランティアで得た「体験」を振り返り、「自己を深く考える」ことを通して、よき教育者及び自立した社会人を目指す。 ○実体験をすることで、学校や児童についてより深い理解をする。 ○学校ボランティア活動に参加・体験した経験から、教職に対する自己の適性について考える。			
授業の概要： 学校ボランティアⅠは、1 年次から 3 年次に受講する学校体験活動である。保育・教育実習の体験活動として、運動会、遠足等の手伝いや付き添いを中心に年間数回の体験活動を行う。日ごろ学生が目にする事のない教員の仕事や児童とのふれあいを体験し、学校現場の理解を深めたり、自身の適性について考えたりする機会とする。 与えられた課題についてレポートを作成し提出する。また、学習のまとめとして紙面発表の機会を設け、活動を次の学生に伝えるときにも教育実習への意欲を持つ。			

授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：学校ボランティアIの意義 第3回：学校ボランティアIの目的と課題についての説明 第4回：学校ボランティアI参加心得① (服装、身なり、言葉遣い、やむを得ず欠席する場合、禁止事項) 第5回：学校ボランティアI参加心得② (訪問の手順、手続き・提出書類、実習計画表、学校ボランティアI後のお礼状) 第6回：教員の活動から学ぶこと (課題について考えを述べるとともに、活動の記録をとり提出) 第7回：児童生徒の活動から学ぶ(同上) 第8回：地域との係わりから学ぶ(同上) 第9回：学校と保護者の関係から学ぶ(同上) 第10回：学校ボランティアIの振り返り①(GWでの交流) 第11回：学校ボランティアIの振り返り②(交流の共有) 第12回：学校ボランティアIを通して次へ：伝えたいもの(GWでの交流) 第13回：発表①(体験を文章等にまとめるための準備) 第14回：発表②(学校ボランティアでの体験をまとめ提出する) 第15回：まとめ(取り組みの振り返りをする) *スクーリングではすべての内容について包括的に取り上げる。		※第1回から第5回までは オンデマンドにより学修する。
教科書 「教員を目指す人のためにー初等教育編ー」		
参考文献 ・特になし		
学生に対する評価 学校ボランティアI活動記録(50%)、科目修得試験(50%)を総合して評価する。		

授業科目名： 学校ボランティアⅠ (中等)	教員免許取得のための 選択科目	単位数： Ⅰ単位	担当教員名： 斎藤 やす子・天利 公一 担当形態：オムニバス
実務内容 (実務家教員の場合)	天利公一：町田市教育委員会 教育センター 適応指導教室指導員 斎藤やす子：高校国語科非常勤講師 日本教育カウンセラー協会 上級カウンセラー		
科 目	大学が独自に設定する科目		
各科目に含めることが 必要な事項	なし		
「学位授与の方針」との関係 星槎大学は、「人を認める、人を排除しない、仲間を作る」という三つの約束のもと、「人と人、そして人と自然とが共生する社会の創造に貢献する」を教育理念としています。共生科学部は、この三つの約束、教育理念に基づき、「21 世紀を創造する広く深い知の涵養」「共生する心の耕作」「課題探究能力の育成」「インクルージョン教育に基づいた社会実践を担い、社会変革を目指す人材の養成」を教育目的とし、以下の「星槎共生スピリット」を身に付けたものに学位を授与します。 A. 共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現の専門的知識を生かし、狭い専門領域を越えて統合しようとする意志を持つこと。 B. 問題が生起する現場において、専門知や統合知を使い、解決のために実践しようとする気概を持つこと。 C. 共感理解教育の理念を認識し、実践すること。 D. 多様な人々や生命に対して、他者を認め、他者を排除せず、仲間を作るという星槎の三つの約束の精神に則って、共生社会の創造に貢献する姿勢を身につけていること。 E. 個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけていること。 F. 共生社会創造の目的のために、絶えず学び続ける意欲を持つこと。			
授業の到達目標及びテーマ： 学校ボランティアⅠでの「体験」を「振り返り、課題を深く考える」ことを通して自己の省察をし、教育現場の理解を深め自己の課題に気づくことができる。 ○学校ボランティアの体験を通して、教育現場についての理解を深めることができる。 ○体験を基に自身の適性について考え、今後の学修に生かすことができる。			
授業の概要： 学校体験活動をすることが目的で、教育実習の前段階の活動として位置づけている。学校現場での観察・参加を通して教育者としての愛情と使命感を深め、教育実習に向けて自己の課題をつかむ。 大学の担当教員の指導を受ける一方、教育現場での実体験を記録に残したり、いろいろな行事に参加したり、自立した社会人としての教養を身に付けると共に、教員としての基礎的な能力と態度を培う。年度末に SC でⅠ年間の成果をまとめる。			

授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：学校ボランティアの意義、目的 第3回：学校ボランティアについての諸手続きについて 第4回：学校ボランティアの心得①（服項について装、身なり、言葉遣い、やむを得ず欠席する場合、挨拶の仕方等） 第5回：学校ボランティアの心得②（禁止事項、学校の1日のリズム、時間の厳守等） 第6回：体験した事や様々な出来事及び自分の振り返りを記録する。 第7回：体験した事や様々な出来事及び自分の1日を振り返る。（記録簿の記入・指導） 第8回：体験した事や様々な出来事及び自分の1日を振り返る。（記録簿の記入・指導） 第9回：体験した事や様々な出来事及び自分の1日を振り返る。（記録簿の記入・指導） 第10回：体験した事や様々な出来事及び自分の1日を振り返る。（記録簿の記入・指導） 第11回：体験した事や様々な出来事及び自分の1日を振り返る。（記録簿の記入・指導） 第12回：これまでの教育実践を通して、心に残った出来事を書く。 第13回：これまでの教育実践を通して、教職に対する自分の思いを書く。 第14回：学校ボランティアIの振り返り（交流と意見の共有） 第15回：学校ボランティアのまとめをする。発表 定期試験	※第1回から第5回までは オンデマンドにより学修する。
教科書 ・「教員を目指す人のために」（教職ガイダンス資料）	
参考文献 ・教育の方法 佐藤学著 左右社 2018	
学生に対する評価 レポート評価（25%）、スクーリング評価（25%）、科目修得試験（50%）を総合して評価する。	